

令和2年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間・**最終** )

宮原中学校区 校番 11

学校名 呉市立坪内小学校

| 重点   | d 中期(3年間) 経営目標       | e 短期(1年間) 経営目標  | l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)  | m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))  |
|------|----------------------|---|---|---|
| ***  | <p>① 主体的で深い学びの育成</p> | <p>○論理的思考力・判断力・表現力の育成<br/>①</p>                           | <p>○「考える授業」づくりの工夫<br/>・ねらいに迫る課題設定と発問<br/>・根拠を明確にした考えの表出と場の設定<br/>【結果と課題】<br/>○児童が考えなくなる課題設定や発問となるように授業改善をすすめたことで、学期末テストの正答率および12月に実施した全国学力調査の通過率ともに、ほぼ目標を達成することができた。<br/>●特に算数において、自分の考えや根拠を表現することができる児童実態に差がある。</p>  | <p>○週に2回、スキルタイムにて算数の文章問題に取り組みさせる。<br/>・情報過多の問題<br/>・わけや理由を書く問題<br/>・図や表を使って解く問題 など<br/><br/>○できる限り、授業の終わりに振り返りを書かせ、評価する。<br/>・「振り返り名人」を紹介し、書き方の参考にさせる。 など</p>   |
| **   | <p>① 豊かな心の育成</p>     | <p>○主体性・自律心の育成<br/>①</p>                                  | <p>○主体性を高める取組の工夫<br/>・TKKJ活動の充実<br/>・児童が「～したい」と思う委員会・係活動<br/>○自律心を高める取組<br/>・「学びのルール」の定着(時計を見て動く)<br/>・計画的な家庭学習(毎日・期限までに宿題提出)<br/>【結果と課題】<br/>○6年生がよい手本となり全校児童の主体性が高まりつつある。<br/>●全校児童の主体性をさらに高める取組となるように継続して指導していく。</p>   | <p>どの活動も継続していく。<br/><br/>○主体性を高める取組の工夫<br/>・TKKJ活動の充実(発信源を増やす工夫→教師・児童発)<br/><br/>○自律心を高める取組<br/>・学期に1回「時計を見て動く」を生活目標に設定していく。<br/>・期限付き宿題を全校で出さず週間を設ける(中学校の期末試験期間に)</p>  |
| *    | <p>① たくましい体の育成</p>   | <p>○体力の向上<br/><br/>○生活習慣の向上</p>                           | <p>○主体的・継続的に運動する取組の工夫<br/>・本校の課題を意識した準備体操の継続的な実施<br/>・サーキットトレーニングに主体的に取り組むための掲示物の工夫<br/>・くれチャレンジジマツスタジアムを活用した取組<br/>【結果と課題】<br/>○コロナ禍での子どもたちの遊び方の工夫<br/>●学校全体で運動の頑張りを発表し、認め合う場がない。<br/><br/>○電子メディアコントロールの取組<br/>・保護者、教職員研修(SNS、ゲームの最新事情)<br/>・中学校区全体での取組<br/>【結果と課題】<br/>●学校通信や保健だよりで児童の電子メディアの使い方について気をつけることを周知していく。<br/>●コロナ禍で外で遊べないことによるゲーム等の時間が増加している。</p> | <p>○コロナ禍で、外遊びが少なくなることを想定して、運動委員会による「外で遊ぶキャンペーン」の実施<br/>○各学年のチャレンジジマツスタジアムへの取組状況(種目・記録・順位など)を校内に掲示<br/><br/>○11月中に電子メディアコントロールを目指した「げんきっず週間」の実施<br/>○保健だより等による電子メディアとの正しい付き合い方の保護者啓発<br/>○電子メディアが及ぼす影響について保健指導を行う。</p> |
| 業務改善 | <p>① 働きやすい職場づくり</p>  | <p>○ワークライフバランスの確保<br/>①<br/><br/>○子どもと向き合う時間の確保<br/>①</p> | <p>○研修の充実<br/>・タイムマネジメント研修<br/>・業務改善に係る研修<br/>【結果と課題】<br/>○ほとんどの教職員が45時間を超えていない。<br/>●タイムマネジメント、業務改善についての研修ができていないので、計画し実施する。<br/><br/>○実効的な業務改善の継続<br/>・積極的な事務支援<br/>・サポート体制の確立<br/>【成果と課題】<br/>○スクールサポートスタッフのおかげで印刷や配付などの支援が受けられるようになった。<br/>●行事・会議などをさらに精選し、児童と向き合う時間を確保していく。</p>  | <p>○毎月の「在校等時間管理システム」の個票をもとに、効率的に時間を活用する意識を高め、遅くとも午後7時には全員退校できるようにする。<br/><br/>○毎週1日は放課後の会議等の予定を入れず、児童が下校後に学級事務や教材研究等に十分取り組めるようなスケジュールを立てる。</p>  |